



7月に入り、今年も陶器産業の町・信楽ならではの夏祭り、「しがらき火まつり」が近づいてきました。古くは江戸時代以前より続くといわれる祭りで、「陶器づくりに欠かせない火」「産業や生活・文化に欠かせない火」への感謝と、火に関わる安全を願って行われます。

たいまつ奉納は、もともとと神事と共に7月23日に行われていましたが、近年では7月の土曜日に行われています。今年のたいまつ奉納は19日に開催です。一般

## ■ しがらき火まつり（甲賀市）

# 炎や太鼓 陶都の夏彩る



の方も参加することができ、小さなお子さまから大人の方まで、近年では外国の方の参加も見られるようになりました。

新宮神社よりお分けいただいた種火がやぐらにくべられ、炎が夜空へ立ち上ります。そしてその火が参加者のたいまつやちようちんにともされ、いよいよ奉納が始まります。

蒸し暑い夏の夜、1時間以上もたいまつを担ぎながら山道を歩く、決して楽ではない行程です。参加者たちは沿道からの声援を受け、力強く歩を進めます。

たいまつ奉納の間、鳴りやむことのない「紫香楽太鼓・炎」の演奏もまた、参加者たちを勇気づけ後押しします。そしてようやく登りつめた愛宕山山頂で、火の神様に迎えられるのです。

参拝を終え、終点地点にたどり着くと、信楽焼でできた記念のメダルをかけてもらい、皆さん達成感に満ちあふれた顔をされています。フィナーレに夜空に打ち上がる花火は、参加者たちをたたえるように信楽の夜を美しく彩ります。

たいまつ奉納とともに祈りをささげ、そしてまた明日からも信楽では火とともにある生活が営まれていきます。信楽の夏の風物詩、ぜひ皆さまも体感してみたいかがでしょうか。

（信楽町観光協会・松田晃余）

◇ 【アクセス情報】主会場は信楽駅前通り一帯へはJ（82）0831



これまでの「しがらき火まつり」はこちらから

R草津線・近江鉄道の貴生川駅から信楽高原鉄道乗り換えで信楽駅下車。車の場合は新名神高速道路信楽インターチェンジ（IC）から約10分。陶都・信楽まつり実行委員会 0748（82）0831